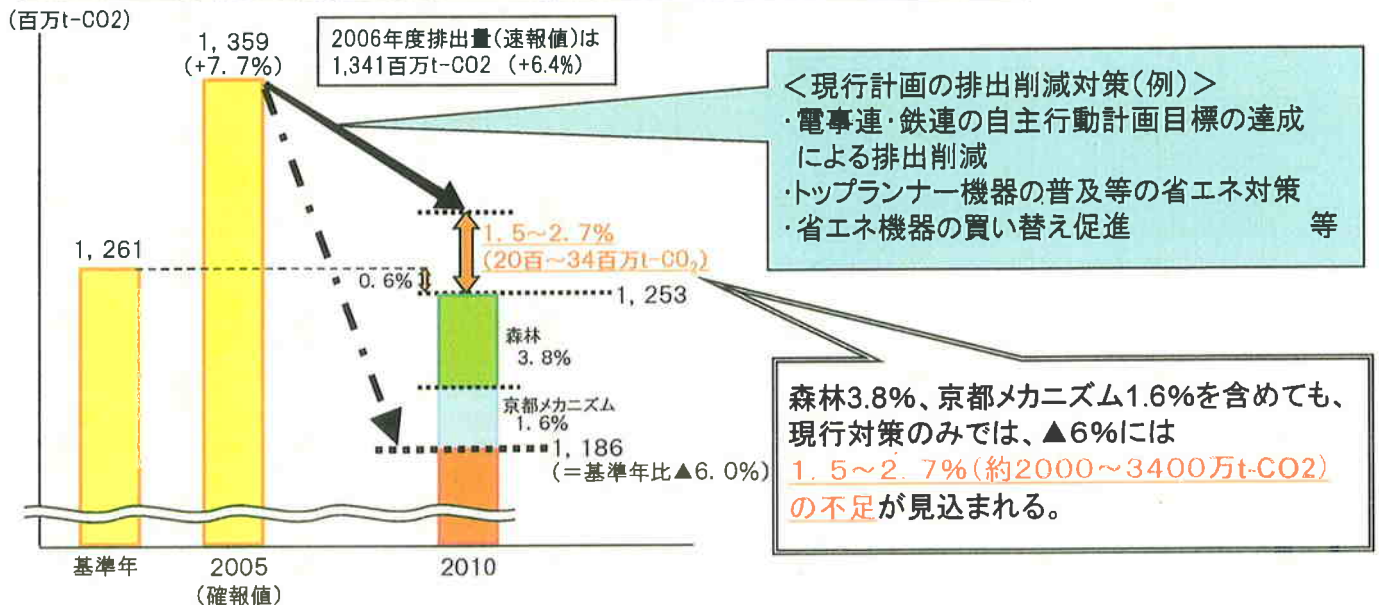


産構審・中環審合同会合 最終報告(案)の概要

○2010年度の温室効果ガス排出量の見通しと不足削減量



○対策・施策の強化を踏まえた2010年度排出量見通し

■2010年度排出量見通しについて

- ・現在の我が国の排出量の状況は、目標達成に厳しい状況にある。
- ・しかしながら、今後、各部門において、国、地方公共団体を始め、各主体が対策に全力で取り組むことにより、京都議定書の6%目標は達成し得ると考えられる。

■主な追加対策：以下の対策により、不足量(2000~3400万t-CO₂)を削減

- 自主行動計画の推進 1,800万t-CO₂
- 省エネ対策の強化 950万~1,150万t-CO₂
 - ・住宅・建築物対策 200万t-CO₂
 - ・自動車単体対策 300~350万t-CO₂
 - ・機器対策 150~200万t-CO₂
 - ・産業・業務部門の省エネ対策・排出削減対策 300~400万t-CO₂
- 新エネ対策の推進 129万t-CO₂
- 中小企業の排出削減対策 182万t-CO₂
- 国民運動 678万~1,050万t-CO₂
- 交通流対策 60万t-CO₂
- 廃棄物・上下水道対策 230万t-CO₂
- 代替フロン対策 120万t-CO₂

※これらの対策による追加削減効果は、一定の仮定に基づく試算であり、今後精査が必要。
 また、これらの効果については、相互の重複や既存対策との重複があり得る。

＜参考＞今後、速やかに検討すべき課題

- ① 国内排出量取引
- ② 環境税
- ③ 新エネルギー対策の抜本的強化
- ④ 深夜化するライフスタイル・ビジネススタイルの見直し
- ⑤ サマータイムの導入